

## 令和2年度新潟市健康づくり推進委員会会議概要

日時： 令和3年2月2日（火）

午後7時から8時30分

会場： 新潟市総合保健医療センター講堂

### 1 出席者

#### 【委員】

伊藤委員、岡田委員、川崎委員、後藤委員、清水委員、関委員、田邊委員、椿委員、長谷川委員、村山委員、葭原委員、和泉委員、和須津委員、渡邊委員

（欠席）川島委員

#### 【事務局】

野島保健衛生部長、高橋保健所長、伊藤健康増進課長、岩谷医監、渡辺課長補佐、荒井係長、藤山係長、古山係長、笹谷主査

#### 【庁内関係課】

地域包括ケア推進課、保険年金課、保健衛生総務課、こころの健康センター、各区健康福祉課

【傍聴者】 0名

### 2 議題

(1) 新潟市健康づくり推進基本計画（第3次）数値目標現状報告及び基本方針別取組状況

- 基本方針1 生活習慣病の発症予防と介護予防
- 基本方針2 生活習慣病の早期発見・早期治療
- 基本方針3 生活習慣病の重症化予防
- 基本方針4 地域に密着した健康づくりの推進

(2) 報告・その他

- 第二期保健事業実施計画（データヘルス計画）・第三期特定健康診査等実施計画の中間評価について
- 新潟市における自殺の現状と取組

### 3 概要

#### <議題1 新潟市健康づくり推進基本計画(第3次)数値目標現状報告及び基本方針別取組状況>

- 新潟市民の健康づくりに関する調査

#### 【事務局説明】

- ・ 感染症の流行による健康づくりへの影響についての質問を3問追加し実施した。  
(1)感染症の流行による体や生活習慣への悪影響については、5割弱が「悪くなったことはない」と回答。次点として、「運動など体を動かす機会が減った」が約3割、「体重が増えた」が約2割。

(2)健康づくりへの意識の変化については、7割強が「変わらない」、「健康づくりへの意識が向上した」が約2割。

(3)健康づくりのために新たに取り組んだことについては、約7割が「新たに取り組んだことはない」だが、「規則正しい生活を送るようになった」「体を動かすようになった」など、生活習慣の見直しを図った人が一定数いた。

- ・ 調査を毎年実施から計画期間に合わせた5年間隔の実施に変更予定。その際には、対象者数を3,000人から6,000人程度に増やす予定。

#### 【意見、感想】

- ・ 回答者の内訳について、年代別の他、性別、区別等の協力率についても分析を行うとよい。

### ○ 基本方針1 生活習慣病の発症予防と介護予防

#### 【事務局説明】

- ・ 野菜deちよいしおメニューについて、今年度は感染症の流行による身体活動の減少等が懸念されたことから、食事・歩数・歯科に関する生活状況を2週間記録することに取り組むキャンペーン「Plusからだレポート」を併せて実施した。
- ・ 高齢者の健康づくりとして、東京大学高齢社会総合研究機構が開発した「フレイルチェック」をR元年度は2地域で実施。R2年度はR3年1月15日時点で5地域で実施した。日常生活圏域29圏域に拡大し実施していきたい。
- ・ 認知症予防出前講座について、R元年度は1,122回実施したが、R2年度は感染症の流行により11月末時点で407回となっている。

#### 【意見、感想】

- ・ 各種事業において、感染症の影響やその見込みの目途はついているか。  
→ワクチンの効果等について、不明確なことも多く事業への影響等はまだ不明確だが、事業の実施方法等については、短い間隔で見直しを図りブラッシュアップしていくことが大切だと考えている。
- ・ 一次予防の取組では、食事、歯科など各分野で連携をとって実施することが大切。  
西蒲区の「にしかんウォーキングチャレンジ」では、栄養や歯科の内容を加えており、効果的な取組。
- ・ 中央区の「ヘルシーランチ」では、お店にのぼりやステッカーなどのマークがあるか。  
→区だよりや区のホームページなどで広報を行っているほか、自治協議会の部会で古町ランチマップを作成中であり、マップでもPRを行う予定。新潟市、新潟県で実施している「健康づくり支援店」、「野菜deちよいしおメニュー」ではのぼり、ステッカーなどを作成し掲示をお願いしている。
- ・ 新潟県では「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をしている人」の数値は悪化している。新潟市は改善しているが、その要因などを分析してほしい。

- ・ 認知症対策を特別なものとしてとらえるのではなく、介護認定を受けていない高齢者の健康づくりを行うことが、認知症予防、対策につながる。各分野とつながった取組を行って欲しい。また、MCI（軽度認知障害）の方の健康づくりが大切であり、他分野の健康づくり活動と重ねて行えると良い。
- ・ 義歯により食事に不自由を感じている方も多く、そういった方へのメニュー等も考えてもらいたい。

#### ○ 基本方針2 生活習慣病の早期発見・早期治療

##### 【事務局説明】

- ・ 新潟市国保では約13万人を対象に実施している。そのうち、約20%が毎年受診、25%が不定期受診、55%が未受診者となっている。ナッジ理論に基づき案内メッセージを対象者の属性により工夫した勧奨通知を案内している。  
SMS（ショートメッセージサービス）による案内も実施。
- ・ メッセージの送り分けをしたことにより、受診券の再発行件数が増加するなど反響があった。
- ・ 年度当初は感染症の流行による健診受診控えの影響等もあったが、1月にはR元年度の8割に回復している。

##### 【意見、感想】

- ・ ナッジ理論において、利得メッセージと損益メッセージそれぞれの効果を確認し、効果的なメッセージになるよう工夫してほしい。

#### ○ 基本方針3 生活習慣病の重症化予防

##### 【事務局説明】

- ・ 未受診者に対し、受診勧奨を行った。R元年度は通知後、保健師による訪問を行っていたが、R2年度は電話のみとしている。

#### ○ 基本方針4 地域に密着した健康づくりの推進

##### 【事務局説明】

- ・ 従業員の健康管理を経営的な視点で取り組む「健康経営」に取り組む事業所を認定する新潟市健康経営認定制度により、支援を行った。今年度は優秀賞に3事業所を認定。また、事業所に医療専門職や人事・労務管理等の専門家を派遣する「新潟市健康経営チャレンジ支援事業」を継続実施した。

##### 【意見、感想】

- ・ 認定事業所の内訳として、大企業、中小企業のどちらが多いか。  
→中小企業が多い。市内には中小企業が多いため、中小企業を中心に働きかけている。

#### <報告・その他>

- 第二期保健事業実施計画（データヘルス計画）・第三期特定健康診査等実施計画の中間評価について

### 【事務局説明】

- ・ R2年度に各計画の中間評価を実施し、評価（案）がまとまった。  
目標1については、改善傾向が2項目、悪化傾向が3項目となっている。今後は、国保加入者のみならず、後期高齢者も対象とした切れ目ない支援を実施していく。  
目標2について、CKD（慢性腎臓病）で未治療の方の割合は減少しているが、健診での有所見者数は増えている。  
糖尿病性腎症重症化予防等ではかかりつけ医との連携が重要になってくる。新規透析者は75歳以上が多いという現状からも、切れ目ない支援を行っていきたい。  
今後は、同一疾患での重複受診者、同一医療機関への頻回受診者への保健指導の他、複数の医療機関から多数の薬剤を処方されている方への保健指導を開始し、医療費適正化に努める。

### ○ 新潟市における自殺の現状と取組

#### 【事務局説明】

- ・ 本市の自殺死亡率について、経年推移をみると、若干の増減はあるが、平成21年をピークに減少傾向にある。  
R2年7月以降全国では増加傾向だが、本市では暫定値として11月までの段階で増加傾向は明確ではないが、今後増加することが懸念されることから、R2年度より取り組みを強化している。  
こころの健康センターが毎月実施しているワンストップの総合相談会において経営相談を新規で実施。また、商工会議所等経済団体から協力をいただき、相談窓口の周知強化を図った。  
R3年度は経営相談に対応する総合相談会の実施回数増を検討するほか、ICTを活用した相談窓口の周知強化、メールやチャットを活用した相談手法の検討を行っている。新規事業の他、従来から行っている電話相談のほか、訪問を主体とした自殺未遂者の再企図防止事業などを行うことにより総合的に取り組んでいく予定。

#### 【配布資料】

##### 次第（裏面座席表）

資料1	令和2年度 健康づくり推進委員会委員名簿 兼 委員会出席名簿
資料2	健康づくり推進基本計画（第3次）指標一覧
資料2-1	令和2年度新潟市民の健康づくりに関する調査結果（抜粋）
資料2-2	基本方針別取組状況
参考資料1	令和2年度健康経営の取組実績について
参考資料2	第二期保健事業実施計画（データヘルス計画）・第三期特定健康診査等実施計画の中間評価について